

イスのサンケイホール鈴鹿（鈴鹿市民会館）・鈴鹿市文化会館指定管理
事業計画書等の要旨【公開用】

申請者名	鈴鹿アートライフデザイン
基本的な方針	【基本方針】 「多様で魅力ある鈴鹿ブランドを発信する 人・まち・文化の交流拠点」 ● 市民の文化芸術活動の拠点として、あらゆる市民がいつでも集い、多くの人々に感動を与える施設を目指すとともに、特色ある文化の創造と発信を通じて、魅力ある「すずか文化」を醸成します。 ● 地域に開かれた施設として文化芸術を通じた人々の個性ある活動と交流を促進し、魅力あるまちすずかの文化芸術を次代につなぎます。 【当グループの経営方針】 1、全国の施設運営ノウハウや最新の文化事業を活用します。 JTB コミュニケーションデザイン、国際ライフパートナーの全国における施設運営ノウハウや文化事業の最新情報を活用し、スムーズな施設運営と多種多様な文化事業を展開します。 2、施設の維持管理・危機管理体制を強化します。 国際ライフパートナー、近鉄ファシリティーズは維持管理のプロとして高い専門性を有し、地域と密着したネットワークで危機管理体制を構築し、安心で安全な維持管理を提供します。 3、地域の文化人材育成に力を入れ鈴鹿市の文化度向上に貢献します。 JTB グループが持つまちづくり・ひとづくりのノウハウを活かし、文化人材の育成に力を入れることで、鈴鹿市全体の文化度向上に貢献します。 【ビジョン／目指すべき姿】 みんなが集い「アート」でつながる もうひとつの「わが家」 【数値目標】(令和10年度) ●年間平均稼働率／市民会館 40%、文化会館 44% ●利用者満足度／80% ●年間利用者数／24 万人 ●文化事業参加者数／2.4 万人 ●友の会会員数／1,000 人
サービスの向上	【サービス向上の基本的な考え方】 JTB グループが培ったホスピタリティメソッドを活用し、利用者の立場に立ったおもてなしの心でサービスを提供します。利用者が自発的に学び、文化を継承していく場づくりに努め、誰もが安心して訪れ「ほっ」とできる施設を目指します。 【サービス向上、利用促進に関する取組み】 ● 子どもからお年寄り、障がいのある方や外国の方でも利用しやすい環境づくりを推進 ● さらなる利用者の拡大を目指し、月に1度の臨時休館日も開館 ● 施設予約システムやキャッシュレスなど施設の Dx 化を推進し、利便性を向上 ● 2つのホール機能や様々な諸室の特徴を活かし、大会や周年事業等の大型催事を誘致 ● 新たなコミュニケーションスペースを設けて情報の拠点づくりを促進 ● スマートフォンに対応した見やすく、探しやすいホームページを立ち上げ、施設情報を分かりやすく紹介するとともに、SNS の活用など幅広い市民の方や利用者へ情報を発信 ● こども食堂や SDGs 体験などを通して子どもたちを育む仕組みや居場所づくりを推進 ● 市民ニーズを把握するための利用者アンケートや事業・来場者アンケートの実施、ラウンドテーブル(意見交換会)の開催などにより、常に施設運営をグレードアップ ● 多様な情報ツールや媒体を活かした多角的な広報活動で情報提供の最大化を追求

施設の管理運営		【施設の管理運営体制】 統括責任者(文化会館責任者)とマネージャー(市民会館責任者)の運営体制のもと、貸館業務や文化事業の推進をマルチタスクで対応して施設サービスの充実を図ります。施設管理は施設管理責任者を常勤で配置することで、日常的な点検により安全管理を徹底します。 【管理運営に関する具体的な取り組み】 ● 市民会館、文化会館の維持管理を一社完結することで効率的な運用を実現 ● 24 時間 365 日稼働の管理センターによる緊急時のバックアップ体制を構築 ● 運営部門・管理部門それぞれ豊富な研修・育成プログラムを実施					
管理運営経費		【収支計画書策定の考え方】 文化会館は令和8年度までに、市民会館は令和10年度までに平均稼働率40%を達成する利用料金収入見込みをもとに算出した収入と、人件費や光熱水費を含めた一般管理費、維持管理費(委託料)の収支差額 932,000 千円と算出します。 【経費節減の方策】 ● 文化会館(DBM 事業)と市民会館の維持管理を一体管理することで経費縮減を実現 ● グループ本社のバックアップ体制や JTB グループの新電力活用により経費を節減 ● 公的助成金や民間助成システム等の外部資金を獲得して事業経費の節減に着手 ● 効率的できめ細かい運転制御によるエネルギー使用料の縮減、省エネ対策を推進					
文化事業		【受託事業(美術展事業・文芸賞事業・音楽祭事業)】 これまでの伝統を継承しつつ、新たな取り組みを加え応募者数の拡大を図ります。文化芸術や音楽を愛する人以外の市民の方にも興味を持ってもらえる仕組みを展開します。 【企画提案事業】 市民会館は大ホールや展示室を活かして、より多くの方に文化芸術に触れていただくよう、市民ニーズの高い鑑賞型事業や自主事業を中心に展開し、北勢エリアの劇場ブランドの確立を目指します。また、文化会館は新しい多目的ドームをはじめ様々な諸室の特性を活かし、市民自らが集い、学び、発信する場として、芸術性の高い参加・体験事業や次世代育成事業、多目的ドーム事業を幅広く展開します。 ● アートマネジメントの領域で豊富な実績と経験を有する JCD プロデューサーを配置 ● 市民サポーターなどの次世代人財を育成するため外部プロデューサーを起用 ● 観賞型事業／年7事業、参加・体験型事業／年3事業、次世代育成事業／年4事業 多目的ドーム事業／年2事業、文化会館オープニングセレモニー／2事業を計画 【自主事業】 市民ニーズに合った話題性のある企画として鑑賞系事業を年3事業、交流系事業を年1事業、企画展示事業を年1事業行い、魅力的な文化事業をより多く提案します。					
収支計画書(千円)	年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	期間合計
	収入合計	265,830	258,560	263,500	264,430	262,380	1,314,700
	内 訳	指定管理料	191,930	186,640	185,560	184,470	932,000
		利用料金	38,000	40,000	42,000	44,000	210,000
		事業収入	34,800	30,800	34,800	34,800	167,000
		その他	1,100	1,120	1,140	1,160	5,700
	支出合計	265,830	258,560	263,500	264,430	262,380	1,314,700